

森のひろば

フォレスト・ニュース

NO.1192

令和7年7月号

林野庁 近畿中国森林管理局



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



シモツケ（鶴見緑地公園・大阪市内）

トピックス：「水都おおさか 森林（もり）の市」の変遷（技術普及課）

ニュース：兵庫森林管理署、岡山森林管理署、島根森林管理署

花草木：ササユリ

我が署のスタッフ：滋賀森林管理署

森林事務所等紹介：大津森林事務所（滋賀森林管理署）

国有林最前線：福井森林管理署

「水都おおさか 森林（もり）の市」の^{へんせん}変遷

【技術普及課】

「おおさか森林^{もり}の市」は、都市に暮らす人々に森林の大切さや木材の魅力を伝えることを目的に、1987年（昭和62年）からスタートしたイベントです。当初は、大阪営林局（近畿中国森林管理局の前身）独自の取組でしたが、現在は森林・林業に関わる行政や関係団体など14団体で構成する「水都おおさか森林づくり・木づかい実行委員会」で開催しています。大阪市北区の大川沿いを会場に、毎年多くの来場者でにぎわうこのイベントは、今年（2025年）で第37回を数えるまでになりました。長い年月を経て「森林と都市をつなぐ場」として、地域とともに歩んできた近畿中国森林管理局の取組です。



第1回森林の市（1987年）



吉村局長の挨拶（当時）



切り株の販売（第1回森林の市）

当初の頃は、職員手作りの木製品や山の幸（シイタケ等）の販売、苗木の配布や竹工作遊びなど（竹とんぼ・竹馬・水鉄砲）、規模は小さく限られた内容でした。しかし、回を重ねるごとに、木工体験や丸太切り、苔テラリウムづくりといった体験型のブース



親子のモックン作りを手伝うスタッフ
（第25回森林の市・2011年）



つかご教室
（第26回森林の市・2012年）

ムづくりといった体験型のブースが加わり、子どもから大人までが参加しやすいイベントへと変化していきました。

現在では、ジビエ（野生動物の肉）料理のキッチンカーや地元の木製品販売、林業機械の展示なども行われ、まさに「見て・ふれて・



体験キッズボート
（第26回森林の市・2012年）



ドラゴンボート乗船体験
（第33回森林の市・2019年）

第36回森林の市（2024年）開催の様子



オープニングセレモニー



みーもくん



会場の様子



しまねっことミyakumyak



ジビエ・ソーセージ



リース作り



丸太切り（サイズ当て）



木工体験



苔テラリウム



キッズコーナー

味わって」森林を感じることができる空間になっています。

ただ、これまで順調に開催されてきたわけではありません。平成30年（2018年）には台風の接近により、初めて開催中止を余儀なくされました。その後、令和2年と令和3年（2020年～2021年）は新型コロナウイルスの影響で、再び中止となりました。令和4年からは感染対策を行いながら再開し、多くの人の支えによってイベントの灯が再びともされました。

森林は私たちの生活に欠かせない資源であり、気候変動や生物多様性の保全、地域経済とのつながりなど、今まさに注目されるテーマと深く関係しています。森林の市では、こうした背景もふまえて、単に楽しむだけでなく、森林と社会のつながりを実感できる機会がたくさん用意されています。

木を使うことが森を守ることにつながるという事実を知ると、私たちの暮らしの見え方も少し変わってきます。持続可能な社会に向けて、都市と自然をつなぐこのイベントに、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

この催しが、豊かな森林づくりと木と暮らす関心を広げるきっかけになれば幸いです。

■ お問い合わせ・最新情報

開催予定日 令和7年10月26日（日）10:00～15:30

出展団体、ステージスケジュール、ワークショップの詳細等については、近畿中国森林管理局ホームページ等にて順次公開予定です。なお、天候等により内容が変更となる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/morinoichi/>



「トライやる・ウィーク」～中学生の職場体験～

【兵庫森林管理署】

兵庫森林管理署では、6月2日（月）から6日（金）までの5日間、^{しろう}宍粟市立山崎西中学校の2年生4名の職場体験（「トライやる・ウィーク」）を受け入れました。

この活動は、兵庫県内で中学生を対象に実施されているものです。中学生が職場体験や福祉体験など、地域での様々な社会活動を体験し、社会的自立に必要な能力を育成することを目的としています。

職場体験では、測量機械を使用した国有林と民地との境界測量、立木調査の実施、治山施設の点検、保護林内の巡視、看板清掃や倒木の撤去、国有林をPRするためのポスター作成等、様々な業務を体験しました。



測量機械の操作



立木調査（樹高）の体験



パソコンを使ってポスターの作成

働く意義について学習するきっかけになることを願っています。

測量機械の業務体験では、積極的に測量機械の操作や作業等を行い、PR用ポスターの作成体験では、多くの方が興味を引くようなインパクトのあるポスターを作るために全員でアイデアを出し合う等、意欲的に取り組んでいました。

今回の職場体験を通じて、森林や林業への興味関心を高めることにつながるとともに、生徒一人ひとりが

津山市立中学校職場体験学習「わくわくワーク」を受け入れました。

【岡山森林管理署】

岡山森林管理署では、6月3日（火）から6月5日（木）までの3日間、津山市立^{かも}加茂中学校の2年生1名の職場体験学習を受け入れました。

この職場体験学習は、実際に働いている人と接し、自分自身も体験することで、働くことや学ぶことの意義や目的を理解し、進路意識の成熟などを図る目的で実施されているものであり、当署では平成25年度から毎年受け入れています。



山腹崩壊地の確認



収穫調査（胸高直径の測定）



林道支障木の処理

今年度は、津山市（旧加茂町）内の国有林において、林道点検、センダンの生育試験地内の成長量調査、林道支障木伐倒の補助、治山事業実施箇所の確認、収穫調査、ドローンによる貸付地の現状確認などを体験しました。

職員の説明や指導をよく聞き、慣れない作業ながらも自ら積極的に取り組み、怪我もなく3日間の職場体験を無事に終えることができました。

今回の職場体験を通じて、森林を管理することの意義や大切さを学び、自分たちの生活との関わりを感じ、将来の進路を考える際の参考にしていただけたいと思います。

「三瓶青少年交流の家」で森林教室を実施しました。

【島根森林管理署】

令和7年6月4日（水）、国立三瓶^{さんぺ}青少年交流の家において、職員が講師となり島根県立浜田養護学校の生徒21人を対象に、環境学習の授業の一環として森林教室を実施しました。

1 講義

川本森林事務所の地域統括森林官から、私たちの生活と森林のつながりについて説明を行い、豊かな森林を守ることの大切さを学びました。



講義をする地域統括森林官

2 紙芝居

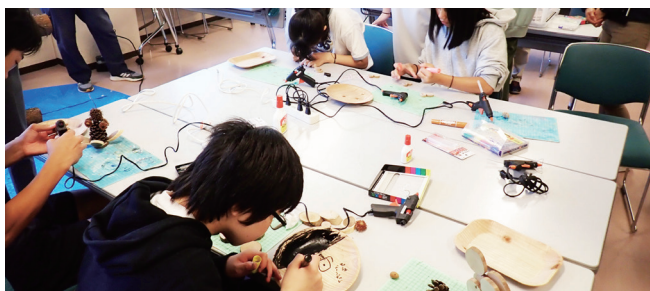


紙芝居の実演

少年が雨水になって冒険するお話「雨水のぼうけん」を皆さん興味津々に聞いてくれました。

3 木工工作

生徒の皆さんは黙々と作業を進めています。木の輪切りや間伐材を利用した皿にペンで絵を書いたり、木の実や松ぼっくりをくっつけたり、自由自在に次々と素晴らしいオリジナル作品を完成させ嬉しそうでした。

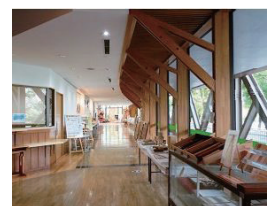


木工工作の様子

島根森林管理署では、このような活動を通じて豊かな森林を育むことの大切さを知っていただくために、引き続き環境教育や森林教室などに取り組んでまいります。

お知らせ

森林のギャラリー（局庁舎1階）



【技術普及課】

○現在の展示は、7月7日（月）～7月30日（水）近畿地方環境事務所、技術普及課、大阪みどりのトラスト協会、株式会社FPIが行っています。

○ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



○9月18日（木）、9月19日（金）、省力化・低コスト造林技術に関する現地検討会を開催します。

詳しくは下記のホームページをご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/press/sidou/250623.html>



【森林整備課】

○令和7年度分収造林の公募について分収造林の実施希望者を募集しています。

詳しくは下記のホームページをご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/apply/publicsale/seibi/R7bunzou.html>



【三重森林管理署】

○大杉谷国有林からの手紙（62通目）を発行しました。これまでのバックナンバーも観ることが出来ます。

詳しくは下記のホームページをご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/mie/oosugitegami.html>



花草木

【ササユリ】

ササユリ（笹百合、学名：Lilium japonicum）は、ユリ科ユリ属の球根植物で、気品に満ちた淡いピンク色の花を咲かせる日本特産のユリです。

地域によっては、ヤマユリと呼ぶこともあり、山や森林によく自生しています。ササユリの名前の由来は笹のような細長い葉をもつことからきています。草丈は大きいもので1mほどで、球根から花をつけるまで数年かかります。そのため、近年数を減らしている珍しい植物でもあります。

ササユリは6～7月にかけて、長さ10～15cmほどの淡いピンク色の花を咲かせます。ユリ特有の反り返った花は、美しく花の大きさ以上に存在感があります。

ササユリの花言葉は「清浄」「上品」「純潔」です。



美の森 眞面国有林で咲いていたササユリの花

我が署のスタッフ 滋賀森林管理署

高橋 正海（たかはし まさみ）（令和6年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

総務グループの経理担当になり2年目を迎えました。

日々の業務では、支払書類の内容確認と処理、事務用品の在庫管理と発注対応、職員の旅費精算、庁舎設備の整備などを担当しています。

また、知識と視野を広げ、幅広い業務に対応できる力を身に付けるために、他グループの現場業務にも積極的に同行して技術を学んでいます。

【職場の雰囲気は？】

職員全員がそれぞれの業務に責任感をもって取り組んでおり、グループを問わず話しかけやすい雰囲気があるため相談がしやすく、連携して業務をスムーズに進めることができる職場です。

【林野庁の魅力は？】

事務仕事で溜まったストレスを現場業務で思いっきり体を動かして解放することができます。

普段の経理業務では市民対応をすることが少ないため、国有林に関する問合せや倒木処理の対応などで感謝された時は達成感があります。



事務所内で執務の様子（手前が本人です）

森林事務所等紹介

大津森林事務所（滋賀森林管理署）

首席森林官 増成 直樹（ますなり なおき）

地域技術官 武部 広（たけべ ひろし）

大津森林事務所は、滋賀県南西部の大津市・甲賀市の一部及び栗東市を管轄区域とし、国有林 16 団地 約 4.3 千 ha を管理しています。住宅や寺院に隣接する都市近郊林が多く、地域から様々なご意見を頂くことがあります。



自然休養林内の名勝「天狗岩」



天狗岩からの眺望（自然休養林と新名神高速道路）

また一方で、東海自然歩道や国宝に指定が答申された琵琶湖疎水が通過し、ハイキングを楽しむなど、入込者が多い国有林もたくさんあります。中でも特に魅力的な自然景観を有しているとして「日本美しの森お薦め国有林」に選定された「近江湖南アルプス自然休養林」（大津市、栗東市）は、特に入込者が多い国有林です。

この国有林では、安全・安心して楽しんでいただくため、遊歩道、案内板などの点検や景観を損なう木の処理を



遊歩道水晶谷線から大津・草津市内と琵琶湖・比叡山

行うなど、当該自然休養林運営協議会や関係者のみなさまの協力を得て、適切な管理に努めています。

訪れていた人に話を聞くと、ここの山はとも変化に富んでいて、何度登っても飽きないとのことで、植物観察もされていました。

摩崖仏^{まがいぶつ}※や変化にとんだ巨大な奇岩が多数あり、琵琶湖対岸の比叡山や比良山系が一望できる所もあり、植物種も多く魅力的な山です。

それから、今では想像できませんが、こ

の一带から藤原京（奈良県橿原市）など都の造営のために大量の木材が搬出され、江戸時代には「田上の禿（はげ）」と言われ、大水害も発生していました。その頃から植栽が進められ、明治以降は政府が招いたオランダ人土木技師のヨハネス・デ・レーケの指導で施工されたとされるオランダ堰堤や石積の山腹工など、先人の苦勞が偲ばれる治山施設などが、ひっそりと佇んでいます。これらにより、今日では豊かな緑が蘇っています。

軽装では危険な箇所もあるので、足元などしっかりとした装備で、この自然休養林をみなさまに満喫していただくと幸いです。

※摩崖仏（まがいぶつ）：自然の岸壁や崖に仏像を彫刻したもの

シリーズ『国有林 最前線！』

クロマツとアカマツのおりなす「気比の松原」

福井森林管理署



地元小学生による松葉かきの様子（松原国有林）



集めた松葉を集積車に運搬する様子（松原国有林）

福井森林管理署で管理している松原^{まつばら}国有林（敦賀市）は、静岡県「三保の松原」、佐賀県「虹の松原」と並ぶ日本三大松原「気比^{けひ}の松原」と呼ばれ、昭和9年に国の名勝に指定されているほか、日本の白砂青松100選、日本の名松100選などにも選ばれる松の名所として、古くから人々の憩いの場として親しまれてきました。

約32haの林内には樹齢200年を超えるクロマツやアカマツなどの松林が広がっており、海岸防災林として敦賀市の市街地を潮害等から守り、また、地元の児童及び生徒に松葉かき※を体験してもらうなど、森林環境教育のフィールドとしての役割も担っています。

近年では松くい虫による松枯れの被害が発生しており、被害木の伐採や破碎処理、また薬剤の地上散布により松くい虫の駆除、被害を事前に防ぐため松に直接薬剤を入れる樹幹注入、マツの土壌となる砂の流失を防ぐ養浜工などの防災林造成事業などを実施することにより、松林を保全育成しています。

福井森林管理署では、有識者、市民団体、地元行政と連携して、これからの気比の松原の姿について検討し、これを「気比の松原100年構想」としてとりまとめ、整備管理基本方針として「クロマツとアカマツのおりなす“白砂青松”の再生」を掲げ、松林の整備を進めています。

今後も各種事業、活動の実施を通じて貴重な松林を守り、次世代に繋げていく取組を進めてまいります。

※松葉かきとは、健全な松林を育てることを目的としたもので、林内に堆積した松葉を取り除くことにより、松の生育に適した貧栄養状態の土壌を維持する作業のことです。



砂の流出を防ぐ養浜工（松原国有林）



松くい虫防除の薬剤地上散布（松原国有林）